

ミルクングシステム点検の実状

標茶町にて

獣医師 大塚 優 磨 (現・釧路東部事業センター 姉別家畜診療所)

標茶町では平成26年度から、関係機関が協力して「乳質改善プロジェクト」に取り組んできました。その過程で、標茶町の多くの農場ではミルクングシステムに異常があることが分かりました。このことから、全農場のミルクングシステム分析結果を集計し、標茶町全体の乳質改善に役立てる検討を行いました。

26年度 標茶町 ミルクングシステム分析結果 (調査総数251台)

異常項目		台数	割合
付属真空計異常		38	15.1%
真空ポンプ能力低下		36	14.3%
調圧器能力低下		23	9.2%
エア漏れ (10%～総数)		117	46.6%
内 訳	エア漏れ (10～20%)	70	27.9%
	エア漏れ (20%以上)	37	14.7%
	エア漏れ (2系統2ポンプ10%以上)	10	4.0%

器はもちろ
ん、バランス
タンクの容量
やパルセー
ターのゴム
パッキンの影



写真① 劣化したゴムパッキン



写真② ミルクラインに固着した乳石

ミルクングシステム点検の集計結果を表に示しました。この結果から、10%以上のエア漏れが標茶町全体のなんと46・6%の農場で存在するところが分かりました。またそれ以外の項目でも多くの異常が認められており、一つの農場で複数の異常が認められることもありました。

標茶町ではこの結果を受けて、畜主と相談の上、積極的にミルクングシステムの部品交換や修理を行っています。その結果、体細胞数・生菌数の改善や乳量の増加が認められる農場もありました。ミルクングシステムの真空圧は、真空ポンプや調圧

響を大きく受けます。そして真空圧の乱れは、乳頭への搾乳圧の乱れへと直結し、ライナースリップやドロップレットの原因となつて乳頭口を痛めることにつながります。ミルクングシステムの異常例として、写真①は、パルセーターのゴムパッキンが劣化し、凹凸がなくなっている様子を示しています。ゴムパッキンはエア漏れの主要因の一つです。しかしながら、「交換したことはおろか、見たこともない」という方も多いと思います。また、写真②は電磁弁の故障によりミルクラインの中に乳石が固着している様子です。こ

れは極端な例ではありませんが、毎日の洗浄に使う洗浄水の温度や洗剤の種類・濃度とともに、洗浄システムの異常によつても生菌数は大きく変動することがあります。

ミルクングシステムは、酪農家のもつとも重要な仕事である「搾乳」の心臓部です。ここに異常があると、天候や飼料のちょっとした変化によつて乳房炎が増加することもあります。そうならないためにも、毎年最低1回は行なっている点検時に異常が認められたら、積極的に修理・交換することをお勧めします。また、毎日の搾乳時に「パルセーターのテンプが一定でない」「パルセーターから空気の抜ける音が聞こえる」「ライナースリップが増えた」などの異常があれば、ミルク業者の点検を受けてください。ライナーゴムの定期的な交換も忘れずに！

バケットミルクカーについても「捨てる乳を搾る機械」という認識ではなく、「これから稼いでくれる牛を搾る大切な機械」という認識をもつて、ライナーゴムの劣化やパルセーターの異常には目を配ってください。